

日本の海岸線を歩く会 行動報告書

報告者 斎藤篤二

1. 概要

地域分類	能登半島
歩行区間	スタート地点:石川県鳳至郡穴水町市甲(かぶと)
	ゴール地点:石川県輪島市袖ヶ浜
実施期間	2014.4.8~11
全歩行距離	約 130km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー	篠崎次郎	75	4日	
2	会計・記録	斎藤篤二	75	4日	
3	総務ほか民宿	松本明子	65	4日	
4	総務ほか民宿	松本美和	48	4日	

3. 歩行の概要

	月日	出発地 ~ 到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
1	4/8	兜診療所~能登七見		篠崎 松本美	午後のみ
2		能登七見~田の浦	22/2組	斎藤 松本明	午後のみ
3	4/9	田の浦~恋路浜		斎藤 松本美	
4		恋路浜~能登伏見	43/2組	篠崎 松本明	
5	4/10	能登伏見~笹波口(高屋町)		篠崎 松本美	
6		笹波口(高屋町)~大川	45/2組	斎藤 松本明	
7	4/11	大川~深見		篠崎 松本明	午前のみ
8		深見~袖ヶ浜(弁天社)	20/2組	斎藤 松本美	午前のみ

計 130Km

4. 参加費

参加者延べ日数 4日

4参加費合計 60,000円/1人 (レンタカー費用 28,000円/1台を含む)

5 歩行方法 2人、2人、の2班で歩行する

初日と最終日は東京からの行き、帰りに時間を費やすので半日の歩行となるが、中2日はフルに1日歩行する計画である。

そして今回歩く地区はバスの便が悪く、非常に行動を制限される。そこでレンタカーを調達し活用することにした。1班がA点~B点、2班がB点~C点へ歩行するが、まず4人とも車でA

点に行く。

ここで1班の2人を下ろし、2班はB点に行き車を駐車場に駐車し

C点まで歩行する。一方1班はB点まで歩行が完了したら駐車してある車に乗りC点に向かい、歩行完了した2班の2人をピックアップし宿に向かう。(駐車した場所などの情報は携帯で連絡)。このような活用をすればバスの時刻に縛られず、行動の幅が大きく出来る。宿にゆくまでの空き時間を利用して観光など結構出来た。

第2回能登半島歩行記録(2014年4月)

4月8日 晴れ

東京を早朝に出発、金沢駅にてレンタカーの手続きをし車で今回の歩行出発点へ向かう。兜診療所着14時

ここから1班、松本美和、篠崎は歩行開始

甲からは海岸線沿った県道を進む。全く店も無く、民家も少なく静かな道をひたすら歩く。たまに漁港が見える。対岸の山波は春がすみで見えない。残雪の剣、立山、が見えるはずなのに残念。前波で休憩を取り先に進む。16時鵜川の集落で県道のバス道を離れ海岸線の道を行く。鵜川の集落を抜け国道249に入り、七見の集落を過ぎ弁天島近くの駐車場でレンタカーにたどり着く。17時 一日中天気も良く、気温も15度前後、すがすがしい天候で海を見ながら楽しく歩くことが出来た。すでに2班は今夜の民宿田の浦荘に到着していた。宿は小さいが綺麗で食事も新鮮な魚が豊富で満足した。ちなみにお刺身だけでも、めじ鮪、間八、鮑、平目、細魚、鰹、

2班、松本明子、斎藤は14.40分七の観光七見の観光ポット「棧敷能登七見」に車を置き出発。コースは平坦な街道で始まる。1.5時間経って入りくんだ宇出津(うしゅつ)の町内を歩く。ここは昔から自然の地形を生かした漁港の町として栄え、今日は大型のイカ釣り漁船が停泊している。造船所も控えている。まさに奥能登の鮮魚の陸揚げ港である。宇出津の町の北側境界のほど近くにあるのが今日の宿「田の浦荘」で、天候次第では目の前の富山湾越しに北アルプスが見える海辺の民宿である。。



新鮮で豪華で安い食通の民宿

4月9日 晴

1班は宿からスタート、我々2班松本明子、篠崎は車で、恋路ロマンチックパーク(恋路が浜の弁天島近くの駐車場)に車を駐車、8時10分、ここから歩行開始、間もなく集落宋玄に入る。ここには酒造元の宋玄がある。町並みは古く、立派な大屋根の家が多く、趣のある街並みだ。鵜島、南黒丸を通り鵜飼集落で一休み、ここからは国道と県道が並行しているが道のあるところは出来るだけ海岸寄りの道を進む。相変わらず趣ある町並みが続く。飯田町に入りここで珠洲市役

所に行きロビーで休憩。10時30分、そして再度海岸線の道を歩く。正院、蛸島、を通過し珠洲焼資料館に入る。資料館の見学に合わせて、ロビーで昼食を取らせてもらう。暖かいお茶のサービスで昼食が出来た。珠洲焼は一度消滅(14世紀末)したが最近(平成23年)復活させている。ここで1時間強過ぎ13時歩き始めた。14時過ぎ今日の目的地、伏見のバス停につく。迎いの車を待ち15時過ぎ宿へ向かう。今日の宿は評判の良い民宿、田崎荘に泊るため13キロもどった。途中道の駅へ寄り16時45分には宿へ。宿は評判通り料理もおいしかった。宋玄の酒(見附島という名前)もうまかった。

1班 レンタカーのあるおかげで朝食を宿でとり、1班は松本美和、斎藤で民宿「田の浦荘」から7.40分に歩行をスタートする。心地良い内海の浦沿いの街道を歩くと路傍で畑仕事をしている人と談笑する。健康そうで齢に見えない若さ(実は78歳)に驚き、重病の入院中の旦那を心配する憂いに同情を感じる。



山の幸を栽培する人

今日の観光スポットと思われた「真脇遺跡パーク」をコースをはずれて探す。往復2時間近くを費やして何とか行き着いたが中味はない。この地で縄文人の生活用品が発掘されたところだそう。この辺は海と陸の恵みを楽しめる場所で縄文人も生活できたのだろう。休憩中神社の石段の上からキツネが覗いていた。11時に九十九湾(鉄道駅跡)駅前の海浜の道を行く。目の前に浜辺が展開されている。平坦な海岸沿いの道を歩くが、途

中海に突き出た千畳敷脇(新保)で昼食をとる。ウミネコ以外に何者もない。今日は途中町の役所がありトイレの心配がなかった。14.40分ゴールに着く。1班の待つ伏見に行き皆揃って今日の宿「田崎荘」に行く。



発掘された縄文人のモニュメント(真脇遺跡パーク)と美和さん

4月10日 小雨のち晴れ

宿を7時20分に車で出て昨日の歩行終点伏見へ行く。第1班(松本美和、篠崎)はここから歩行開始。海岸線の県道を北上。1時間ほど歩くと寺家の道の駅、ここで休憩を取り再び歩きだす。雨がぽつぽつと落ちてきた。10分ほどで珠洲神社に着く。本殿まで行きお参りし、雨具を付け先に進む。ここからは登りが続く。40分以上登ると珠洲岬への分岐に着く。岬まで往復1時間、見通しは望めないが折角だからと歩いたが何も見えなかった。分岐点へ戻ると雨も上がったので雨具を取り歩きだす。11時30分狼煙の道の駅、一休みして禄剛崎灯台を見る。ここからは川浦町まで海岸線の遊歩道を歩いてみた。道は登り下り、そして曲がりくねっており時間がかかる。川浦町の先は諦め県道を歩く。12時30分を過ぎたので海岸に降りて昼食を取り、13時歩きを再開した。千本椿を通り大崎近辺の岬で駐車してある車に到着15時10分、2班をピックアップ行く。途中道の駅で天然塩の製造所を見学、15時50分大川バス停で2班と合流、そして文化財と成っている平家の子孫、上時国家と、千枚田を見学し、今夜の宿、輪島市内の民宿満月へ向かう。この民宿は大きく、内部の木部は輪島塗が施してあり驚いた。廊下はさすがにマットを敷き保護してあったが階段は漆塗り、漆塗りの上を直に歩いたのは初めての経験だった。また食事の御椀、皿、杯、なども全て輪島塗だった。夕食後公園の夜桜を見に行ってきた。丁度満開で夜桜を堪能した。

2班は松本明子、斎藤で車を笹波口(高屋町)西端の海浜に置く。たまたまブルドーザが地ならしの仕事をしていた。責任者にパーキングの適した場所を聞き海の間際の砂地に駐車することにした。ここから歩行開始。雨は歩き始めて10分と経たないうちに止む。今日この地を寒冷前線がかすめ冬型の天気になるらしい。意外にも急変の青空のなか静かな海道を歩く。大谷の神社で早めの昼食をとる。桜花の下に弁当を頬張る。今日のコースは海岸の平らな道で楽しい。真に海岸の旧道の廃道を歩くことが出来る。海は真っ青な地中海の青で、海辺の平たい岩の千畳敷は鉄を含み赤味をおびている。赤島はこの地名である。それにしても静かな日本海である。あげ浜塩田に何軒もの製塩所があり、立寄ってみた。1件目は個人企業でモチベーションが高いが2件目はやや観光向け。伝統的塩作りは手間のかかる仕事だが、品質がウリ。今日のゴール大川に15.30分到着。今日の宿は輪島市内の「満月」。風格のある旅館と言った方がいい。外見よりも内部の作りがいい、この地の特徴であるうるし塗りをふんだんに使ってまさに輪島ならではの。女将はまさしくおもてなしのプロ、料理もシャレっていて美味しい。



咲き急ぐ桜花と日本海



薪による海水煮沸釜

4月11日 晴

今日が最終日、朝食後朝市を観光し、昨日の終点、バス停大川まで戻り、1班(松本明子、篠崎)は歩行開始、10時50分千枚田の道の駅休憩し、さらに海岸沿いの道に行く。11時30分打越近くの駐車場で歩行完了、車で輪島市内の朝市会場へ 会場の駐車場で2班と合流、11時50分、昼食を取り、漆器会館を見学、金沢駅へ車で向かった。金沢市内は桜が満開で大変な混雑、時間も余りないので車で公園を一周、桜を満喫して帰京した。 2班は松本美和、斎藤。9.30分深見の南をスタート。今日の海も青い。一気に輪島市内まで歩く。市内は市の西端「袖ヶ浜」の弁天社まで1.5時間かけ歩く。歩行終了。朝市駐車場まで戻る。(12.15分)

以上 篠崎、斎藤